

# 臨床看護学・助産学専攻科

## 1 構成員

	平成22年3月31日現在
教授	2人
准教授	2人
講師（うち病院籍）	6人（0人）
助教（うち病院籍）	7人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	30人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	48人

## 2 教員の異動状況

野澤 明子（教授）	（H9. 4. 1採用，H13. 8. 1～現職）
大見サキエ（教授）	（H16. 4. 1採用，H17. 4. 1～現職）
久保田君枝（准教授）	（H17. 4. 1～現職）
永井 道子（准教授）	（H16. 10. 1～20. 7. 31講師；H20. 8. 1～現職）
安田 孝子（講師）	（H16. 4. 1～現職）
宮城島恭子（講師）	（H17. 4. 1～現職）
佐藤 直美（講師）	（H9. 8. 1～18. 3. 31 助手，H18. 4. 1～現職）
倉田 貞美（講師）	（H18. 6. 1～現職）
稲勝 理恵（講師）	（H21. 4. 1採用、現職）
武田江里子（講師）	（H21. 4. 1～現職）
杉山 琴美（助教）	（H16. 4. 1採用，H.19. 4. 1～現職 H.21. 3. 9～22. 3. 31産休・育休）
足立 智美（助教）	（H16. 4. 1採用，H19. 4. 1～現職）
牧野公美子（助教）	（H18. 4. 1～19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
五十公野由起子（助教）	（H.18. 5. 1採用，H.19. 4. 1～現職）
黒田 博文（助教）	（H19. 4. 1～H22. 3. 31退職）
坪見 利香（助教）	（H19. 4. 1～現職）

- 奥川ゆかり（助教）（H20. 4. 1～H22. 3. 31退職）  
 河島 光代（助教）（H21. 11. 1～現職）  
 横山 浩誉（助教）（H21. 3. 9採用～H22. 3. 31退職）  
 村上 静子（教務補佐員）（H21. 4. 1～現職）

### 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4編 （ 4編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	5編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編 （ 1編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	4編 （ 4編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編 （ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

#### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

##### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 武田江里子, 弓削美鈴：女性の思う「子どもの意味」が対児感情に与える影響，日本母子看護学会誌、3(2), 15-22, 2009
2. 武田江里子：18か月児を持つ母親の「怒り-敵意」に関する要因および対児感情への影響—妊娠末期から産後18か月までの日本版POMSによる追跡調査から—，日本助産学会誌，23(2), 196-207, 2009
3. 坪見利香・大見サキエ：小児科外来看護師の軽度発達障害と診断・推測される子どもへの対応—対応困難と感じる子どもへの家族と看護師の関わり—，第40回日本看護学会論文集(看護総合)、日本看護協会、216-218、2009
4. 大見サキエ・宮城島恭子・岡田修一・坂口 公祥・三浦絵莉子・須永訓子・坪見利香：ALLで骨髄移植後再三の退院延期を余儀なくされた小学生の復学支援—調整会議前・後に意図的に関わった事例の検討—，小児がん看護，5号，78-89, 2010

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### (2) 論文形式のプロシーディングズ

##### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 永井道子, 小澤佳恵, 加藤健剛, 斉藤彩乃：離職防止に向けた看護師の要望，日本社会精神医学会雑誌 18(1): 144, 2009
2. 大見サキエ・三浦絵莉子・坪見利香・金城やす子・河合洋子・加藤千明・中島玲子・泉真由子・相曽容貴子・須場今朝子：アメリカNY州における小児がん患者の復学支援の現状①—Stony Brook University Hospitalにおける復学支援プログラム，へるす出版，33(3), 390-394. 2010

3. 奥川ゆかり：文化に配慮した倫理的実践に関する事例検討，日本看護倫理学会誌（2010）2(1): 4-5.
4. 奥川ゆかり：出生前診断における倫理的問題の考察－妊婦の相談事例から－椋山女学園大学看護学研究（2010）vol.2: 79-83.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Hormone Replacement Therapy Improved Climacteric Symptoms And Change in Plasma Biotpterin Levels. Goto S, Omura I, Mizuno T, Nakajima F, Okugawa Y. 椋山女学園大学看護学研究（2010）vol.2: 1-12.

### (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 久保田君枝：現代女性の食習慣と体型が胎児発育におよぼす影響，助産雑誌，64(2)，115-121, 2010

インパクトファクターの小計 [0.00]

### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 牧野公美子，水田明子，菊地慶子，鈴木みずえ：高齢者の転倒に潜んだ真のニーズと本人のQOLを考えたケアプランとは，コミュニティケア11(10)，日本看護協会出版会，64-69, 2009年.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 尾島俊之，巽あさみ，西山慶子，安田孝子，倉田貞美，菊地慶子，他：保健指導ノート2010 血圧の状況，肥満の状況，喫煙の状況，アルコール関連，思春期の喫煙と飲酒，公衆衛生の現状，高齢者医療福祉，3-7-3-11，3-18-3-22，7-1-7-11，日本家族計画協会，2009年

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 遠藤俊子編、武田江里子：ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア，ハイリスク新生児の病態とそのケア—分娩損傷—，216-219，日本看護協会出版会，2009
2. 佐藤直美：家族，先天奇形，新版増補生命倫理事典，（酒井明夫・中里巧・森下直貴他編），太陽出版，2010.

## 4 特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数（出願中含む）	0件

## 5 医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	5件 (479万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	1件 (200万円)
(5) 受託研究または共同研究	1件 (500万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (0万円)

### (1) 文部科学省科学研究費

- 五十公野由起子(代表者) 若手研究(B) 救急外来におけるDV被害当事者への看護実践モデルの考案 169万円(新規)
- 坪見利香(代表者) 挑戦的萌芽研究 小児科外来看護師の発達障害児への対応の現状と課題に関する基礎的研究 70万円(継続)
- 大見サキエ(代表者) 基盤研究(C) がんの子どもの教育支援プログラムと連携システムに関する基礎的研究 130万(継続)
- 佐藤直美(代表者) 若手研究(B) 外来化学療法を受ける進行がん患者の適応に至るプロセス 50万円(新規)
- 久保田君枝(代表者) 基盤研究C, 低出生体重児の増加と妊娠中の栄養状態の関連についての研究 60万円(継続)

### (4) 財団助成金

- 佐藤直美(分担者) 肺がんの遺伝子多型 喫煙科学研究財団研究助成 200万円(新規) 代表者 病理学第一 相村春彦

### (5) 受託研究または共同研究

- 尾島俊之, 早坂信哉, 安田孝子, 菊池慶子, 巽あさみ, 浜松市の女性の健康支援対策事業のための基礎調査, 500万円

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	10件
(6) 一般演題発表数	6件	

### (1) 国際学会等開催・参加

- 5) 一般発表

#### 口頭発表

1. Ojima T, Fukunaga I, Iwamuro S, Noda T, Murata , Hayasaka S, Ueda M, Kondo I, Haraoka T, Kikuchi K, Hasegawa T, Funahashi K, Yasuda T, Yamada T, Shibata Y, Nishiyama K, Nakamura M: What is the effective population approach for cancer screening program: IEA, Saitama Prefectural University, Jan 9-10, 2010, Saitama (Japan)

#### ポスター発表

1. Takako Yasuda, Kimie Kubota, Katsutarou Nagata, Takuya Hasegawa, Tomoko Sasaoka, Tadashi Yano, Chiyo Murata, Toshiyuki Ojima: Effects of acupressure massages on alleviation of menopausal symptoms: WANS (The 1st International Nursing Research conference of World Academy of Nursing Science), Sep 19-20, 2009. Kobe Japan
2. Takako Yasuda, Chiyo Murata, Toshiyuki Ojima, Shuji Tounai, Zentarō Yamagata: Maternal Smoking and Drinking during Pregnancy: IEA (International Epidemiological Association), Jan 9-10, 2010. Saitama Japan
3. Kurata S: Perceptions of physical restraint by family caregivers of home-dwelling elders. 19<sup>th</sup> International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, 5-9 July 2009, Paris
4. Sakie Omi, Yuji Miyajima, Sachiko Takahashi, Kayoko Torimoto, To understand and support of children with cancer -effectiveness of seminars targeting the management of elementary and junior high schools-, The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 114, Kobe International Exhibition Hall (2009. 7. 19)
5. Nagasawa R, Matsuo H, Fukae H, Inakatsu R: The status of disaster nursing education in nursing colleges. The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, September 2009, Kobe, Japan.

#### (2) 国内学会の開催・参加

##### 3) シンポジウム発表

第28回思春期学会「心と体を育てる食育」妊娠期における食育：久保田君枝

##### 4) 座長をした学会名

佐藤直美 第24回日本がん看護学会学術集会

久保田君枝 第22回静岡県母性衛生学会

#### (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 野澤明子, 日本糖尿病教育・看護学会 専任査読員
2. 野澤明子, 日本慢性看護学会 評議員
3. 久保田君枝, 日本母性衛生学会 評議員
4. 久保田君枝, 日本母性衛生学会 査読委員

5. 久保田君枝, 日本看護医療学会 査読委員
6. 久保田君枝, 静岡県母性衛生学会 理事
7. 大見サキエ, 日本看護医療学会 専任査読委員
8. 大見サキエ, 日本小児看護学会 専任査読委員
9. 大見サキエ, 日本看護学教育学会 評議委員
10. 稲勝理恵 日本糖尿病教育・看護学会 専任査読員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	11件
(3) 学内共同研究	2件

### (2) 国内共同研究

1. 倉田貞美 村上静子 梅林ゆきる(浜松北病院) 芥川知奈(浜松北病院)：「一般病院における unnecessaryな身体拘束を解除する看護モデルの構築～一般病院に入院する高齢者を対象として～」
2. 鈴木みずえ, 泉キヨ子(金沢大学), 平松知子(金沢大学), 金森雅夫(成蹊スポーツ大学), 安田真美(三重県立看護大学), 本間昭(認知症介護研究・研修東京センター), 斎藤真(三重県立看護大学), 征矢野あや子(佐久大学), 牧野公美子：EBMに基づいた認知症高齢者のための日本転倒リスクマネジメントの開発と理論化(基盤研究B)
3. 鈴木みずえ, 牧野公美子, 巽あさみ, 大塚敏子, 水田明子, 菊地慶子, 木本明恵(日本スウェーデン福祉研究所), 藤原清恵(和恵会記念病院), 阿部邦彦(和恵会記念病院), 林辰弥(三重県立看護大学)：ソフトマッサージが高齢者と看護師に及ぼす行動・心理・生理学的効果の検討
4. 坪見利香, 大見サキエ, 宮城島恭子, 杉江秀夫(自治医科大学), 高崎順子(鈴鹿市立教育研究所)：外来看護師の発達障害児への対応の現状と困難さをきたす要因の検討
5. 大見サキエ, 宮城島恭子, 坪見利香, 河合洋子(関西看護医療大学), 金城やす子(名桜大学看護学部), 岡田周一, 濱中喜代(慈恵会医科大学), 鈴木恵理子(淑徳大学)：がんの子どもへの教育支援プログラムと連携システムに関する基礎的研究
6. 中山洋子(福島県立大学), 戸田肇(北里大学), 田村正枝(岐阜県立看護大学), 永山くに子(富山大学), 小松万喜子(愛知県立大学), 東サトエ(宮崎大学), 土井洋子(兵庫医療大学), 石井邦子(千葉大学), 大見サキエ他：看護実践能力の発達過程と評価方法に関する研究
7. 河合洋子(関西看護医療大学), 藤原奈佳子(愛知きわみ短期大学), 横田雅史(平成帝京大学), 大見サキエ, 岸川亜矢(関西看護医療大学)：就学前の軽度発達障害児および病弱児の

保育環境に関する研究

8. 佐藤直美 喫煙行動と遺伝子多型の関連 相村春彦(病理学第一), 谷岡書彦(磐田市立総合病院検査科)
9. 稲垣曜子、竹内久枝(磐田市立総合病院), 野澤明子, 慢性腎臓病患者に対する指導上の問題点
10. 松尾ひとみ(静岡県立大学短期大学部), 稲勝理恵、遠藤久美(静岡県立静岡がんセンター): 自家組織による乳房再建術を経験する乳癌患者へのケアの探求
11. 長澤利枝, 松尾ひとみ, 深江久代(静岡県立大学短期大学部), 稲勝理恵: 災害看護教育の現状と新カリキュラムにおける課題の検討

(3) 学内共同研究

1. 大見サキエ, 加藤和子, 久保田君枝, 宮城島恭子, 木山幹恵, 山本恵美子, 坪見利香, 牧野公美子, 黒田博文, 菊地慶子, 水田明子: 医療安全教育に関する取り組みの現状とニーズ
2. 川島千絵, 小山智子, 岩田洋子, 工藤ゆかり, 野澤明子, 術後せん妄症状発言に関連する性格・行動特性の検討

## 10 産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 看護学生の自己教育力を高めるための教育方法の検討—問題解決型学習プログラムの効果—  
若い女性のやせ志向は高く、同時に低出生体重児の増加現象も顕著である。ところで妊娠前や近年わが国において新卒看護職員の離職が問題になっている。卒業後のさまざまな困難に対処行動をとりながら成長し続けるためには、基礎教育において自己教育力を育成することが重要である。本研究では、自己を内省し、設定した目標に向かって主体的に取り組むことで自己を開拓していくという問題解決型学習が、自己教育力の向上につながるかどうかを検証することを目的とした。分析の結果、学習後の自己教育力の総得点は学習前と比較して有意に上昇し ( $p < 0.001$ ), 下位尺度別項目においては「成長・発展への志向」と「学習の技能と基盤」に有意な上昇 ( $p < 0.01$ ) がみられた。質的分析では以下の『カテゴリー』が抽出された。グループワークにおいて『他者との関係性』を強化し、『仲間同志の連帯感』を高めた。そこから『自己開示の向上』がみられ、『自己理解の深まり』や『自己統制力の獲得』につながった。また『自己開示の向上』によって、『自己成長への意欲の向上』や『行動の積極性や自主性の向上』に発展し、自己教育力の向上に影響した。これらの結果から、自己教育力を向上させるためには、他者との交流の中で互いのコミュニケーション力を高め、支えあうことができるチームワークを重視した問題解決型学習プログラムが有効であると示唆された。

(渡邊誘美, 永井道子)

## 2. 救急外来におけるDV被害当事者への看護実践モデルの考案

医療機関の中でも救急外来は、DV被害当事者が来院することが多い科の1つといわれている。そこで、救急外来におけるDV被害当事者に対する看護実践モデルを考案することを目的に研究を行った。平成21年度は、民間団体・市町村のDV被害当事者に対する支援・相談業務に携わっている支援者にインタビュー調査を行い、支援者へのインタビュー結果の分析を進めている。

(五十公野由起子)

## 3. 外来化学療法を受ける進行がん患者の適応に至るプロセス

外来で化学療法を受ける進行がん患者が治療をどのように生活に組み込み、適応していくかを質的研究手法を用いて明らかにすることを目的とした研究である。データ収集施設への研究依頼を行い、今後データ収集予定である。

(佐藤直美, 野澤明子, 稲勝理恵)

## 4. 高齢者におけるNeurexin-1 (NRXN1) 遺伝子多型と喫煙行動との関連

60歳以上の外来患者の喫煙行動とNRXN1遺伝子多型との関連を検討した。男性の対象者において、非喫煙者に多型rs2193225のGGのタイプが多く、タバコ依存度テスト得点や一日喫煙本数でGGが高値を示した。この結果は逆説的であるものの、日本人で初めてNRXN1多型が喫煙行動に関連している可能性を示した。

(佐藤直美, 影山信二<sup>1</sup>, Chen Renyin<sup>1</sup>, 鈴木雅也<sup>1</sup>, 谷岡書彦<sup>2</sup>, 加茂隆春<sup>1</sup>, 新村和也<sup>1</sup>, 野澤明子, 相村春彦<sup>1</sup>) 1病理学第一 2磐田市立総合病院検査科

## 5. 高齢者におけるNeuropeptide Y receptor 2 (NPY2R) 遺伝子多型と喫煙行動との関連

上記と同様に60歳以上の外来患者の喫煙行動とNPY2R遺伝子多型との関連を検討し、1つの多型について有意な関連が見られた。成果を現在投稿中である。

(佐藤直美, 影山信二<sup>1</sup>, Chen Renyin<sup>1</sup>, 鈴木雅也<sup>1</sup>, 谷岡書彦<sup>2</sup>, 加茂隆春<sup>1</sup>, 新村和也<sup>1</sup>, 野澤明子, 相村春彦<sup>1</sup>) 1病理学第一 2磐田市立総合病院検査科

## 6. 糖尿病性腎症患者の血液透析療法導入に至るまでの心理的特徴

保存期から透析療法導入期にある糖尿病腎症患者の心理的特徴を明らかにすることを目的に現在3名の方を対象にインタビューを実施した。今後収集したデータの分析を進め、さらに対象者数を増やしていく。

(野澤明子, 佐藤直美, 稲勝理恵, 鶴見智子, 石川敬子)

## 7. 医療者間の機能を有効活用し看護師の意欲を高め慢性腎臓病患者指導の充実を図る取り組み

慢性腎臓病患者に対する指導上の問題点に対し、アクションリサーチの考え方により、患者指導の充実を図るための実践的アプローチを行った。それにより、看護師の指導意欲が向上し、問題状況の改善が得られた。今後、学会発表・論文作成を行っていく。

(鈴木夏奈子, 竹内久枝, 坂下知佳, 稲垣陽子, 佐藤直美, 野澤明子)



#### 8. 急性心筋梗塞患者の家族員への看護実践の探求

急性心筋梗塞患者の家族員における病いの経験を、現象学の思考をもとにつまびらかにし、看護実践の可能性を探求している。今回は、急性心筋梗塞を患い冠状動脈大動脈吻合術を受けた夫の傍らで、妻が形作ってきたある身の置き方に注目した。その身の置き方を行動という枠組みの中でとらえようとした際の限界を解くとともに、身の置き方と解釈できたことによる看護実践の可能性を探求している。

(稲勝理恵)

#### 9. 自家組織による乳房再建術を経験する乳癌患者へのケアの探求

乳房再建術を経験する乳癌患者の置かれた状況を明らかにすることを目的とし、国内外の文献を検討した。乳房再建術は患者にとって有益な方法の一つではあるが、普及の段階にあることから、医療者によるケアが患者の状況と一致していない側面がみられ、ケアの開発が今後の課題と考えられた。そこで、ある看護理論に基づく看護実践の有用性を検討するとともに、その理論をふまえた、乳房再建術を経験する乳癌患者へのケアを探求している。

(松尾ひとみ<sup>1</sup>, 稲勝理恵, 遠藤久美<sup>2</sup>) <sup>1</sup>静岡県立大学短期大学部, <sup>2</sup>静岡県立静岡がんセンター

#### 10. 災害看護教育の現状と新カリキュラムにおける課題の検討

看護系大学・短期大学における災害看護教育の実態および課題を明らかにすることを目的とし、国内の看護系大学・短期大学182校を対象に、質問紙調査を実施した。その結果、カリキュラムにおける災害看護教育の位置づけ、教育内容・方法、教育効果、担当教員の背景などが明らかになり、平成21年度からの新カリキュラムにむけての検討課題が示唆された。

(長澤利枝<sup>1</sup>, 松尾ひとみ<sup>1</sup>, 深江久代<sup>1</sup>, 稲勝理恵) <sup>1</sup>静岡県立大学短期大学部

#### 11. 一般病院における不必要な身体拘束を解除する看護モデルの構築

近年、身体拘束は深刻な廃用性の機能障害を生むばかりか、尊厳を著しく脅かす人権侵害行為と認識されるようになった。

多くの医療処置が実施されている一般病院では、医療処置を安全に遂行し生命を守るために、身体拘束以外にどのように看護対応すればよいのかが確立していない。そのため、弊害や人権侵害であると思いつつも、身体拘束をせざるを得ない現実に苦しむ看護師は多く、一般病院における不必要な身体拘束を防止する具体的な対応策の確立が強く望まれ、看護上の差し迫った課題となっている。

そこで、A病院の看護部との共同研究として、不必要な身体拘束を解除する看護モデルの構築に取り組んでいる。看護師の身体拘束の認識についてアンケート調査の実施と、パーソンセンタードケアの研修会を開催した。今後は身体拘束実施の第一の理由となる被拘束者の危険行為について、事例を用いてパーソンセンタードケア等の視点から検討し、看護ケア計画の策定と実践を行い、身体拘束減少効果と看護師の認識の変化を検証する予定である。

(倉田貞美, 村上静子)

## 12. 自立高齢者の脳梗塞発症危険因子についての認識

高齢化が進む現在、脳梗塞の予防は介護予防の視点からも重要な課題である。脳梗塞は食事・飲酒・喫煙など、生活習慣と大きく関連し、糖尿病・心疾患・高血圧症などが危険因子となるため、脳梗塞の発症率を減少させるには、高齢者自身がその危険因子を理解し予防行動を実践することが重要である。しかし、高齢者がどの程度、脳梗塞の危険因子について認識しているか？に焦点を当てた研究は少ない。そこで、A市高齢者クラブ連合会所属の15地区の高齢者クラブ会員約500名を対象に、脳梗塞とその危険因子の認識度について自記式の質問紙調査を行った。研究の趣旨に賛同の得られた300名から回答が得られ、前年に引き続き継続して解析した。

(倉田貞美)

## 13. 低出生体重児の増加と妊娠中の栄養状態の関連についての研究

特に近年若い女性のダイエット志向によるBMI値18.5以下のやせ妊婦における低体重児出産傾向、さらには「低体重児は、成人になると生活習慣病、特に高血圧のリスクが高くなる」というBarker 仮説など出生体重2500g未満の低体重児出産の増加現象に関し警鐘が鳴らされている。そこで本研究では、妊娠期間前期・中期・末期の三期、各期間の妊婦の食事を調査をすると共に各時期の胎児の推定体重も測定し、妊娠期間中の栄養素別食事バランスの良否がどのように胎児の成長に影響するのかを検証している。

中間報告であるが (1)妊婦1139名のBMIが25以上の肥満5.9%、25～18.5以上標準70.3%、18.5未満のやせ23.8%でやせの割合が多く、また妊婦1145名中、ダイエット経験者の割合は564名(49.2%)で多い傾向を示した。(2)妊婦の食事摂取状況は、総じて高脂質・高食塩の傾向が顕著であり、総エネルギー量、Fe、レチノール、VC、葉酸などは低い傾向がみられた。(3)妊婦の食事摂取内容と胎児の発育との関係では、胎児発育曲線から逸脱している事例があり、全妊婦の分娩を待って最終的な解析を行う予定である。

(久保田君枝, 内藤初枝, 金山尚裕, 伊東宏晃, 安田孝子, 足立智美)

## 14. 浜松市の女性の健康支援事業のための基礎調査

浜松市は「健康はままつ21」を策定し、「やらまいか元気な人づくり」をスローガンに様々な市民の健康づくりの取り組みを行っている。本研究の目的は12歳から44歳までの市民の健康状態や生活習慣などの実態を明らかにし、浜松市の健康支援対策事業の施策を検討する基礎的資料とすることであった。無作為抽出された中学生男女1,566人、15～44歳の男女2,000人に自記式質問紙調査を実施し、「平成21年度浜松市民の健康づくり調査報告書」を作成した。

(尾島俊之, 早坂信哉, 安田孝子, 菊地慶子, 巽あさみ)

## 15. 外来看護師の発達障害と診断・推測される子どもへの対応に関する全国調査

小児科外来に勤務する看護師を対象に質問紙調査を実施した結果、小児科では、子どもと家族の双方へ対応の困難さを感じており耳鼻咽喉科では子どもや家族との関わりの困難さは小児科より低い傾向にあった。子どもに対する対応困難さの程度と発達障害特性の理解は、看護経験などの基本属性との関連は認められなかった。外来看護師が、発達障害児へ適切な対応をするために

は専門的知識やコミュニケーション力等のスキルを蓄積するための研修の必要性が明らかになった。

(坪見利香, 大見サキエ)。

#### 16. がんの子どもの教育支援プログラムと連携システムに関する基礎的研究

教員を対象とした研修会開催や復学時の合同会議を継続し、実際の復学支援に対する啓発の効果がでている。特に平成19年度より設置された小学校における特別支援教育コーディネーターを対象とした研修は管理者クラスの参加であり、学校の協力体制を整備するためには効果的であった。愛知県では小児がんの子どもの復学支援を5カ年計画で開始しており、その研修での講師として講演し広く多医療機関の医療者の啓発にも参画した。その他、復学支援説明用パンフレットを作成し、その効果が確認できたので、試行的に共同研究者のいる医療機関で活用してもらう予定。また、学会でも欲しいという希望があり、配布予定。さらに合同会議後、復学後の教員の支援の実態も明らかとなっていないため、研究協力者により教員への面接調査を実施し、そのデータを現在分析中である。

(大見サキエ, 坪見利香, 宮城島恭子, 岡田周一, 他)。

#### 17. 看護実践能力の発達過程と評価方法に関する研究

全国の1年～5年目の看護職の横断的調査の結果、経験年数間の比較、各コンピテンスの発達の特徴を見出すことができ、今後の継続教育への大きな示唆を得ることができ、報告書を作成し、協力機関に配布した

(大見サキエ：代表；中山洋子 福島県立大学)

### 15 新聞、雑誌等による報道

1. 久保田君枝：NHK特報首都圏，増える「やせ妊婦」～揺れる 産科の現場～，平成21年9月18日19時30分から19時55分まで放送